



〈右上から〉■国宝 鏡心日記 室町時代 ■国宝 仲文章要文 鎌倉時代 ■不動明王二童子像 南北朝～室町時代 ■国宝 富士縁起 (断簡・全海筆) 鎌倉時代 ■国宝 聖教目録 什蔵 鎌倉時代 (すべて称名寺所蔵・神奈川県立金沢文庫管理/保管)

特別展 中世学僧列伝!!

金沢称名寺に伝来した国宝「称名寺聖教・金沢文庫文書」は、中世に生きた学僧の足跡をリアルに伝える一大史料群として知られています。なかでも16,000点におよぶ「称名寺聖教」は、称名寺やその周辺寺院、京都や奈良の諸寺院で活躍した学僧たちの修学の成果を伝える一方、彼らの残した手紙からは、悲喜こもごもの心情や、学問を志しながらも世事に奔走していた様子がかげがえします。本展覧会ではそうした史料を読み解きながら、有名無名の学僧の生き様をご紹介します。

称名寺の歴代長老、とくに初代審海、第二代釵阿、第三代湛睿については、100年近くに及ぶ県立金沢文庫の研究活動によって詳細な事績と修学のあり様が解明されてきました。しかしながら、中世の称名寺は長老以外にも多くの個性的な僧侶が集い、生

活し、学ぶ場であり、その結果「称名寺聖教」の一角を構成する特徴的な聖教や古文書が遺されました。本展覧会では歴代長老の周辺で活動した、知られざる学僧たちに光をあてたいと思います。

本展は全四章構成で、第I章では称名寺の全盛期を主導した釵阿のもとで聖教の収集、書写をおこなった乗一、澄尊を取り上げます。第II章では、湛睿と同時代に活動し、各地の寺院を遍歴し、修学に邁進した全海、亮順に注目し、彼らの蔵書を紹介します。第III章では、戦乱の時代に称名寺や関東の諸寺院を巡って修学・修行に努めた湛円、鏡心に注目します。第IV章では、「称名寺聖教・金沢文庫文書」や関連する文書群のなかに見える、僧侶の修学を寺院経営という面で支えた僧侶たちに光をあてます。

【関連行事】

- ①月例講座「称名寺に伝わる『覚禅抄』について」8月26日(土) 講師：向坂 卓也 (神奈川県立金沢文庫学芸課長)
- ②月例講座「学僧の修学と日常」9月23日(土・祝) 講師：三輪 真嗣 (神奈川県立金沢文庫学芸員)
- ③「東大寺展」図録活用講座 第1講「あの時の東大寺展一展覧会の裏で」8月20日(日) 講師：山地 純 (神奈川県立金沢文庫主任学芸員)
- ④「東大寺展」図録活用講座 第2講「東大寺の法会と財政」8月27日(日) 講師：三輪 真嗣
- ⑤「東大寺展」図録活用講座 第3講「国宝 僧形八幡神坐像について」9月9日(土) 講師：瀬谷 貴之 (神奈川県立金沢文庫主任学芸員)
- ⑥「東大寺展」図録活用講座 第4講「東大寺文書の歴史」9月18日(月・祝) 講師：湯山 賢一 (神奈川県立金沢文庫長)

〈会場・定員〉
金沢文庫地下大会議室。各回60名 (各講座とも定員を超えた場合は抽選となります)

〈申込方法・期限〉
金沢文庫HP「講座申込フォーム」、または往復はがき(お一人様1講座1通まで、ただし③～⑥を複数回申し込みの場合は1通で可)に、講座名(開催日)、住所、氏名、電話番号を明記の上、①8月10日(木)、②9月7日(木)、③8月3日(木)、④8月10日(木)、⑤8月24日(木)、⑥8月31日(木) 必着でお申し込みください。
〒236-0015 横浜市金沢区金沢町142 神奈川県立金沢文庫 電話045-701-9069

〈注意事項〉
講座は諸事情により中止となる場合があります。その際ははがきでお申し込みの方にはお電話で、「講座申込フォーム」でお申し込みの方にはメールでご連絡いたしますので、必ず連絡先(電話番号、メールアドレス)をご記入ください。なお、受講時はマスクの着用をお願いしております。

【次回予告】
特別展 廃墟とイメージ
令和5年9月29日(金)～11月26日(日)

徒然草 (奈良絵本) 第三十段
人の亡き跡ばかり悲しきはなし
江戸時代 神奈川県立金沢文庫所蔵